

江別市かわまちづくり

計画書（案）

令和3年10月

江別市

<様式1>

江商工 ●号

令和4年●月●日

(北海道開発局長経由)

国土交通省 水管理・国土保全局長 殿

江別市長 三好 昇

「かわまちづくり」計画の登録について（申請）

「かわまちづくり」支援制度実施要項第7の規定に基づき、申請いたします。

市町村及び河川の概要

1. 市町村等の概要	
①都道府県名	北海道
②市区町村名	江別市
③人口	119,777人(令和3年9月末現在)
④面積	187.38km ²
⑤市の特色	<p>江別市は、石狩平野の中央に位置し、一般的に平坦な地形で豊かな自然環境に恵まれ、札幌市、北広島市、岩見沢市、当別町、南幌町、新篠津村と隣接しており、道央圏で札幌市に次ぐ規模の都市となっています。</p> <p>昭和40年代より宅地造成が進んだ江別市は、5つのJR駅を中心に市街地が形成されており、交通アクセスの良さなどが評価され、札幌市への通勤・通学圏内で最も人口が増加しました。近年は、商業施設や飲食店の進出が目立ち、自然と都市機能が調和したまちとして発展を続けています。</p> <p>江別の語源は、アイヌ語の「ユベオツ」(サメのいる川)または「イブツ」(大事な場所への入口)とされ、明治11年の屯田兵の入植以降、「外輪船」による石狩川の舟運の中心として栄え、当時の隆盛を物語る「旧岡田倉庫」等の歴史的建造物が多く残っています。また、明治24年のレンガ製造開始以降窯業も栄え、現在でもレンガの一大産地となっており、平成16年10月に「江別のれんが」が北海道遺産として認定されています。</p> <p>江別市にまたがり広大な面積を持つ幌森林公園は、昭和43年に北海道百年を記念して道立自然公園に指定されました。公園の大部分を国有林が占め、昭和の森自然休養林や鳥獣保護区に指定されています。公園内には、総延長40kmほどの自然遊歩道、休憩施設、5つの池等があり、市民に親しまれています。</p> <p>江別市内には官民の大規模研究施設が立地し、4大学・1短大があります。近年、研究施設や大学が市内生産者・製造業と連携し地域ブランド創りへの挑戦も盛んになっています。また、研究施設・大学とも市民向けのイベント・セミナーなどを開催するなど、地域に開かれた取組みも積極的です。</p> <p>江別市の産業は第三次産業が中心ですが、農業は大消費地の札幌市に隣接していることもあり、稲作、畑作、酪農等多岐にわたっています。初冬まき栽培で有名な幻の小麦「ハルユタカ」、首都圏で有名な乳製品の自家生産企業、ハム・ソーセージの製造企業等のほか、シーズンには多くの野菜直売所がオープンします。</p>
	 
	旧岡田倉庫
2. 市内の河川の概要	
①主な河川	<ul style="list-style-type: none"> ・石狩川(一級河川石狩川水系、流域面積14,330km²、流路延長268km) ・千歳川(一級河川石狩川水系、流域面積1,244km²、流路延長108km) ・夕張川(一級河川石狩川水系、流域面積1,417km²、流路延長136km) ・豊平川(一級河川石狩川水系、流域面積902km²、流路延長72.5km) <p>石狩川は、江別市の北部に面し、大雪山系石狩岳の西斜面に源を発して上川盆地、石狩平野を経て432の支川を合わせ日本海に注ぐ一級河川です。</p> <p>千歳川は、我が国を代表するカルデラ湖で国内有数の透明度を誇る支笏湖を源とする、石狩川流域の主要な一次支川です。支笏湖周辺は豊かな自然環境によって支笏洞爺国立公園を構成しています。千歳川は全国有数のサケ遡上河川であり、秋には多くの観光客が訪れます。市街地にある河川管理用道路をはじめとする河川空間は、住民によるイベント空間や散策路等としても利用されています。</p> <p>また、夕張川は江別市の東部、豊平川は江別市の西部に面する、石狩川流域の主要な一次支川です。</p>

②河川と江別市や民間事業者との関わり

■石狩川河川敷緑地（昭和 51 年）

ソフトボール場 2 面、サッカー場 2 面、駐車場 2 箇所が整備された石狩川河川敷の公園緑地であり、地域のスポーツの場として多くの人に利用されています。

■江別市景観形成基本計画（平成 18 年 3 月）

自然が創り出すものと人が創り出すものが織りなす「江別らしさ」のある景観として、「自然」「原風景」「れんがの温かさ」を感じる、人にやさしく暮らしていて“ほっ”とする景観のあるまちを目指しています。計画の中で、市民が集う JR 江別駅前や商店街等で、まちの顔として楽しく活気があり「魅力」ある景観として「江別らしさ」「心地よさ」「活気」のある景観や、千歳川と調和した緑豊かで潤いのある景観を目指した取り組みを行うこととしています。

③これまで実施済みの関連施策

■江別河川防災ステーション（平成 14 年完成）

水防資器材の備蓄、水防活動の拠点基地や災害時の避難場所として活用するための施設として、千歳川合流点付近に計画・整備されました。

平常時における防災研修の場や河川情報の提供、川を題材とした歴史、川の恩恵などの展示をはじめ、防災意識の向上に努めるほか、市民の憩いの場として親しまれる空間づくりを展開しています。



河川防災ステーション

■アートスペース外輪船（平成 17 年 7 月オープン）

歴史的建造物である「旧岡田倉庫」を、江別の芸術・文化の発信基地となるイベントスペースとしてリニューアルしました。

「旧岡田倉庫活用民間運営協議会」が江別市から借り受けて管理・運営を行っており、演劇・コンサート・講演会等の各種イベントに利用されています。



アートスペース外輪船

④市民や民間事業者による河川利活用状況

江別市は、度々石狩川や千歳川の洪水氾濫に見舞われてきた地域ですが、河川整備が進められており、多くの市民が憩いや自然とのふれあい、イベントの場として広く河川空間を利活用しています。

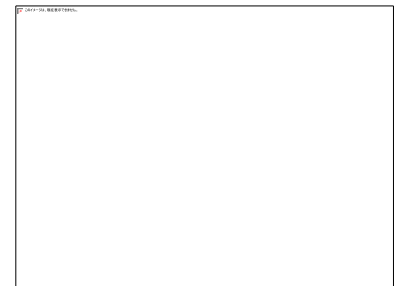
- ・千歳川沿いの河川管理用道路で、散策を楽しむ光景が見られます。
- ・春には「こいのぼりフェスティバル」、夏には「えべつ花火」「石狩川リバーセービング」など、多くのイベントが開催されており、過去に NPO 主体で開催された「ミズベのロングマーケット」では、千歳川沿いで多くの市民がコンサート・雑貨販売・クルーズ等を楽しんでいます。
- ・江別河川防災ステーションでは、江別の観光の紹介及び物産の販売を行っています。
- ・市民や地元の NPO 等と河川管理者が連携しながら、市民参加による清掃活動等の維持管理や小学生を対象とした水生生物の観察会等の環境教育に取り組んでいます。



こいのぼりフェスティバル



ミズベのロングマーケット



野菜直売所（防災ステーション）

<様式3>

水辺とまちづくりに関する基本方針

江別市では、「えべつ未来づくりビジョン（第6次江別市総合計画）」に基づき、地域資源を活かし江別観光の魅力をさらに高めるとともに、商店街の活性化等を推進し、観光による産業の振興に努めています。地域資源の発掘と活用、観光・イベント情報の発信を行い、江別市のイメージアップ、物産と観光が融合した江別ブランドの確立を図っているところです。

また、「江別市都市計画マスタープラン2014」における江別地域のまちづくり構想に基づき、江別駅周辺の歴史性や界索性、良好な河川環境等の特性を活かした地域の魅力向上を目指して、地区核にふさわしいJR江別駅周辺の再構築による周辺市街地との連鎖的な活性化、重要な地域資源である千歳川と共存した地域づくりを推進しています。

平成30年3月に「江別市観光振興計画」を策定し、各主体が役割を分担しつつ、観光資源を活かした魅力づくりと観光プロモーション、市民や事業者が実感する観光まちづくりを推進し、「食と農の豊かな実り、れんがと歴史にふれる街」を目指しています。

今回の「かわまちづくり」計画による新たな整備により、条丁目地区と千歳川が一体となった水辺空間の活用をより一層進め、江別市の地域活性化に寄与することを目指します。

主体	役割
市民	<ul style="list-style-type: none"> ○江別市居住者、市民団体、ボランティア、大学生を含む、江別市に関わるすべての市民は、江別の魅力の一番の理解者であり、江別市の観光振興の応援団です。 ○本計画を推進するため、市民一人ひとりが良き情報発信者、良き実践者としての役割を担います。
民間	<p>【観光関連団体の役割】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○観光関連団体は、情報発信等の観光振興に関する事業を実施する主体となります。 ○本計画を推進するため、組織体制の充実、強化に努め、観光振興に関する事業の実施・調整について、民間の中心的役割を担います。 <p>【観光関連事業者・民間事業者の役割】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○観光関連事業者や民間事業者、市内の4大学および関連機関は、それぞれの事業を通じ観光振興を推進する役割を担います。 ○本計画を推進するため、観光関連団体と連携し、観光事業の実施主体となります。
行政	<ul style="list-style-type: none"> ○江別市は観光振興に関わる事業を実施するほか、広く観光情報発信を行い、江別市の魅力発信に取り組みます。 ○本計画を推進するため、民間や市民、他市町村等との調整やコーディネートを行うほか、様々な事業の実施主体をバックアップする役割を担います。



「江別市観光振興計画」における各主体の役割

<様式4>

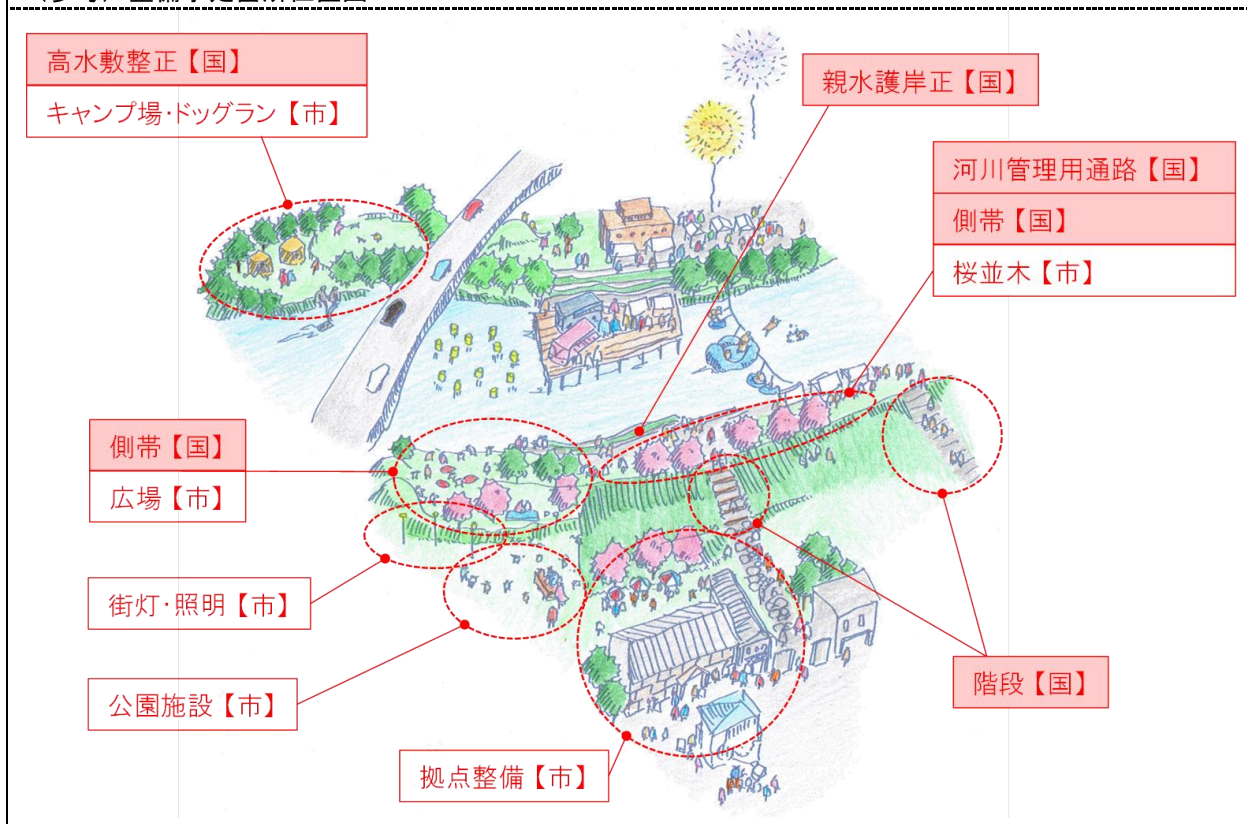
ソフト施策の個別施策計画書

1. 河川名
石狩川水系千歳川
2. 提案事業の実施範囲
千歳川 江別市条丁目地区
3. 提案事業の概要
千歳川 江別市条丁目地区
【協議会・勉強会の発足】
・令和2年11月、江別市、学識経験者、地元関係者等からなる「江別市かわまちづくり協議会」を設立し、江別市街築堤整備（石狩川・千歳川堤防整備）に伴い移設を要する「旧岡田倉庫」の利活用方法等について検討するとともに、旧岡田倉庫周辺の河川空間とまち空間が融合した良好な空間形成を目指す取組について協議してきました。
・令和3年1月以降、「江別市かわまちづくり協議会」のワーキンググループとして、「江別市かわまちづくり勉強会」を定期的で開催し、条丁目地区の水辺整備や河川空間の利活用推進に向けた意見交換を行っています。
・今後、民間事業者を加え、事業を遂行する実行組織の発足を支援します。
【既存制度の活用と展開】
※今後、江別市かわまちづくり協議会・勉強会で了解を得られたソフト施策内容に基づく文言を整理
【行政（江別市）による事業支援】
※今後、江別市かわまちづくり協議会・勉強会で了解を得られたソフト施策内容に基づく文言を整理
【ソフト施策】
条丁目地区を周遊する観光モデルコースの設定、千歳川の水辺空間を活用した新たなイベントの企画、冬期のアクティビティの実施等を行い、「旧岡田倉庫」を条丁目地区における利活用拠点「川の駅」に位置づけます。
※今後、江別市かわまちづくり協議会・勉強会で了解を得られたソフト施策内容に基づく文言を整理
（参考）
図：江別市かわまちづくり管理・運営組織の実施体制（案）
※今後、江別市かわまちづくり協議会・勉強会で了解を得られた実施体制（案）模式図を整理

支援整備内容の概要（ハード施策）

1. 河川名
石狩川水系千歳川
2. 整備範囲
千歳川下流 江別市街築堤
3. 整備内容
<p>千歳川の江別市街築堤の水辺整備や「旧岡田倉庫」周辺の基盤整備とともに、「都市・地域再生等利用区域」指定を行うことにより、イベントやマルシェ等を開催し、水辺とまちをつなぐ人の流れを創出します。</p> <p>また、「旧岡田倉庫」を条丁目地区における利活用拠点「川の駅」に位置づけ、江別市条丁目地区の歴史・文化・観光等に関する情報を発信し、「旧岡田倉庫」を拠点としたまちなかへの回遊を促進します。</p> <p>1) 千歳川の水辺整備（河川管理用通路、高水敷整正、側帯、親水護岸、階段） ※今後、江別市かわまちづくり協議会・勉強会で了解を得られたハード整備内容に基づく文言を整理</p> <p>2) 「旧岡田倉庫」の基盤整備 ※今後、江別市かわまちづくり協議会・勉強会で了解を得られたハード整備内容に基づく文言を整理</p> <p>3) 河川管理用通路の整備と周遊コースの設定 ※今後、江別市かわまちづくり協議会・勉強会で了解を得られたハード整備内容に基づく文言を整理</p> <p>4) 条丁目地区の施設整備（桜並木、公園・広場、街灯・照明、拠点施設整備） ※今後、江別市かわまちづくり協議会・勉強会で了解を得られたハード整備内容に基づく文言を整理</p> <p>5) 市内看板等の整備 ※今後、江別市かわまちづくり協議会・勉強会で了解を得られたハード整備内容に基づく文言を整理</p>

（参考）整備予定箇所位置図



3. 整備の必要性、有効性

整備予定箇所は千歳川合流点付近にあり、対岸に江別河川防災ステーションがありますが、河川空間の賑わいの面では、主に地元住民のカヌー利用や一時的なイベント利用にとどまっています。

また、千歳川沿いの江別市条丁目地区には、舟運で栄えた明治時代のレトロを感じさせる旧岡田倉庫等の歴史的建造物が数多く点在しており、「アートスペース外輪船」が演劇・コンサート・講演会等の各種イベントに利用されています。しかしながら、国道12号線の切り替え国道等により商店街の衰退や空き家等が増加しているため、江別の魅力を再発見し、川のある暮らしを望む声が挙がっていました。

さらに、江別市の観光の面では、市内に観光客が宿泊できる施設が少なく、滞在型の観光に向いていないこと、また大都市札幌に近いという地理的要因等から、通過型観光地とならざるを得ない状況であり、今後江別市の観光資源を活かし、道内誘客、特に近隣市町村からの誘客が重要となっています。

そこで、「江別市かわまちづくり」によって条丁目地区に隣接する水辺空間を整備することで、イベントでの利用価値を向上させ、江別の特産品の青空マーケットや地域の祭り等のイベントを開催することにより、着地型観光拠点として位置付けていきます。また、水上アクティビティの水面利用環境の改善や河川管理用通路の連続性確保によって、利用者の満足度を高めることができます。

さらに、条丁目地区を中心とした広域周遊観光の拠点として位置づけ、既存の歴史的建造物の利活用施設としての機能を充実させるとともに、観光情報を提供する拠点とすることができます。

まち・人・水辺を結び、条丁目地区の認知度・知名度が向上することによって、まちなかの交流人口の増加と地域活性化を見込んでおり、市民の期待も大変高まっています。

4. 整備の実現方策

【関連事業の整備計画】

・平成21年2月に隣接する札幌市、千歳市、恵庭市、北広島市、石狩市、当別町、新篠津村とともに広域観光振興を目指す「さっぽろ広域観光圏整備計画」を策定し、観光圏の整備による観光旅客の来訪及び滞在の促進に係る様々な事業に取り組んでいます。

・江別市では「江別市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき、平成27年度から5ヶ年計画で観光振興による交流人口の増加と経済活性化を目指しています。具体的な事業としては、大学及び学生等との連携事業、学生地域活動補助事業、グリーンツーリズム関連事業（直売所・貸し農園・農産加工）、北海道フード・コンプレックス国際戦略総合特区の取り組みを首都圏の企業にPRする広報事業等があります。

・こうした事業と連携することにより、賑わいのある水辺空間の利活用の推進を図ることができます。

・条丁目地区の利活用拠点となる旧岡田倉庫は、千歳川の築堤整備に伴い移設される予定であり、工事に合わせて利便性を確保できるよう、関係機関や河川管理者と調整を進めています。

【整備工程】

※江別市かわまちづくり協議会・勉強会で了解を得られたハード整備内容に基づく整備工程を整理

5. 推進体制

令和2年11月に江別市、学識経験者、地元関係者、河川管理者（札幌開発建設部）等連携の下、江別市街築堤整備に伴い移設を要する旧岡田倉庫の利活用方法等を検討し、旧岡田倉庫周辺の河川空間とまち空間が融合した良好な空間形成を目指す取組について協議することを目的とした「江別市かわまちづくり協議会」を設立しました。令和3年1月から「江別市かわまちづくり勉強会」を開催し、より具体的な事業計画の策定と実践に向けた議論・検討等を推進しています。さらに、民間事業者等を加え、事業を遂行・運営する実行組織の発足を目指します。

6. 有効利用および維持管理

①有効利用に関する計画

※江別市かわまちづくり協議会・勉強会で了解を得られたハード整備内容に基づく文言を整理

②維持管理計画

- ・旧岡田倉庫及び水辺の整備施設の内、河川管理施設等の防災上必要とされる施設機能の維持管理については、河川管理者が行います。
(国：河川管理用道路、護岸等)
- ・非常時（洪水氾濫時及び事後）における河川空間等の管理については、河川管理者が行います。
- ・河川等の占用に伴う占用物に対する日常的な維持管理・清掃等に関しては、江別市、地元関係者、民間事業者等からなる実行組織）及び河川管理者が連携して実施します。
- ・維持管理費用については、官民で分担して永続的に維持管理が可能となるよう、適切なライフサイクルコストを検討していきます。

7. 特徴

歴史が結ぶ まち・人・水辺

～旧岡田倉庫は、江別市条丁目地区における着地型観光拠点として生まれ変わります～

旧岡田倉庫等は「アートスペース外輪船」として、演劇・コンサート・講演会等の各種イベントに利用されてきましたが、隣接する千歳川の河川景観や広大な水辺空間というここにしかない魅力を最大限に活かせていませんでした。

「江別市かわまちづくり」の整備により、まちなかから水辺への人の流れを創出するとともに、条丁目地区及び周辺地域の企業や事業者等と連携して運営することで、来訪者に様々なツールを提供し、交流人口を増加します。



水辺整備予定箇所



基盤整備予定箇所

<様式6>

その他特筆すべき事項

※今後、旧岡田倉庫活用民間運営協議会等の条丁目地区における取組内容を整理